

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	+3	+2	+5	令和8年度の目標	+4	+3	+2	+1	+2	+3	+2	+3
令和7年度の結果	-5	-10	-15	令和7年度の結果	+1.3	-1.8	-3.4	-6.1	-4.4	-0.7	-4.6	-0.4
令和6年度の結果	-3	-5	-8	令和6年度の結果	-10.8	-11.4	-6.9	-7.3	-8	-2.9	-3.7	2.4
令和5年度の結果	-19	-23	-42	令和5年度の結果								
年度	令和7年度			令和8年度								
内容	成果と課題			目標			目標達成に向けた取組					
学校全体	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルデザインの視点に立った授業改善を研究主題とし、全ての児童が参加できる授業づくりを進めたことで、授業に意欲的に取り組む児童が増え、前年度の学力テストの得点を上回る結果を出すことができた。</li> <li>【課題】</li> <li>全国学力・学習状況調査の結果から、国語科では全体的に、「漢字の読み書き」「書くこと」の得点率が低かった。また算数科では「知識・技能」に比べ「思考・判断・表現」に関する設問の得点率が低い。</li> </ul>			<p>○全学年が学習スタンダードに基づいた授業を実践する。</p> <p>○国語科では、漢字の定着を図るとともに、自分の考えを論理的に記述できる力を育てる。</p> <p>○算数科では、解決に至るまでの過程や、それらを説明し表現する力を育てる。</p>			<p>○本時のねらいを明確にした「めあて」と「振り返り」のある授業を実践する。</p> <p>○国語科では、漢字の読み書きの定着に向け、学期に一回、漢字50問テストを活用した「漢字王（検定）」を実施する。また、必要な情報を読み取って、正確に答える力を養うために、読売新聞「よむYOMUワークシート」を活用する。</p> <p>○算数科では、図・式・表を用いて、自分の考えをノートに書き表す等の活動を取り入れる。</p>					
第1学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国語の読みでは、1音ずつの読みから文節の読みができるようになり、文章理解ができるようになった。まよめワークシートなどの初見の文章に際しても、読み取りができるようになった。</li> <li>○国語の書きでは、ひらがな・カタカナは9割以上が書けるようになった。漢字に関しては、全員が再テストを含めて90点以上をとることができた。</li> <li>○算数では、授業のはじめに繰り返し計算カードに取り組んでいたこともあり、正確に速く答えが出せる児童が増えた。</li> <li>【課題】</li> <li>○カタカナや漢字などは、使わないと忘れてしまう児童が多いため、習った漢字などは使用して学習を進めていく必要がある。</li> <li>○繰り返し上りのあるたし算や、繰り返し下りのあるひき算、時刻の読み方に課題がある児童が1～2割程度いる。</li> </ul>			<p>○国語科の音読では、語のまとまりを意識して音読し、文章の内容が理解できる力を養う。</p> <p>○カタカナや漢字を、文章の中で正しく使えるようにする。</p> <p>○算数科では、繰り返し上りのあるたし算や繰り返し下りのあるひき算をスムーズにできるようにする。時刻を正しく読めるようにする。</p>			<p>○音読指導では「語のまとまり」を意識させ、内容理解につなげる。宿題で音読に取り組ませる。</p> <p>○カタカナは、「ツ」「シ」「ソ」「ン」の字形に気を付けて練習させ、カタカナを書く機会を意図的に設ける。</p> <p>○漢字小テストで個々の習得を細かく見取り、反復練習で定着させる。</p> <p>○具体物を用いて、数の量感を養い、計算の仕組みを理解させる。</p> <p>○時刻を正しく読めるようにするために、生活と結びつけた声かけを日常的にしていこう。</p>					
第2学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○音読を丁寧に指導したことで、9割ほどの児童が語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて読むことができた。</li> <li>○算数では、授業のはじめに繰り返し計算カードに取り組んでいたこともあり、正確に速く答えが出せる児童が増えた。</li> <li>【課題】</li> <li>○ひらがなや漢字の練習が定着したが、ひらがなの書き順やカタカナ、漢字を正確に習得できていない。</li> <li>○繰り返し上りのあるたし算や、繰り返し下りのあるひき算、時刻の読み方に課題がある児童が1～2割程度いる。</li> </ul>			<p>○読書の時間を活用し、「内容を理解する力」「読み取る力」を身に付ける。</p> <p>○国語科の授業や日々の生活での対話を通して、語彙を増やす。</p> <p>○算数科では、自分の考えを簡単な表やグラフを使って、表現できるようにする。</p> <p>○全児童が、上がり九九だけでなく、バラ九九を唱えられるようにする。</p>			<p>○読書の時間や朝読書等の読み聞かせを通して、質問や感想の機会を設ける。</p> <p>○物語の感想や授業の振り返り、観察カード、日記など、書くことを通じて、思ったことや伝えたいことを明確にして文章を書くことができるようにする。</p> <p>○九九の定着に向けて、九九カードを活用し、保護者の協力を得ながら児童が繰り返し練習に取り組むことができるようにする。</p> <p>○九九検定を行い、認定書を発行する。</p> <p>○算数科では、簡単な表やグラフを用いて自分の考えを表す時間、お互いの考えを伝え合う時間を確保する。</p>					
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国語科ではすべての領域で概ね全国平均の得点を得ている。観点別に見ても「知識・技能」「思考・判断・表現」共に、わずかではあるが全国平均を上回っている。算数科では、全ての領域で全国平均との差が縮まっている。基礎問題と応用問題で落ち込みの差異はほとんどなく、基礎の定着から見直す必要がある。</li> <li>【課題】</li> <li>江戸川区学力調査において、国語科では、記述問題がやや落ち込んでいる。また、漢字の読み書きも課題である。算数科では、「長さ」「時刻と時間」が他の単元に比べて大きく落ち込んでいる。</li> </ul>			<p>○国語科では、漢字の定着を図る。また、自分の考えを文章で表現できる表現力を養う。</p> <p>○算数科では、基礎的計算能力の向上を図るとともに、量感覚を養う。</p>			<p>○日々の漢字テストでの見取りをしっかりと行い、反復の中で定着を目指す。モデル文の提示や活動の目的を明示することで、考えを表出する機会を増やしていく。</p> <p>○日々の学習の中でマス計算やドリル学習を増やし、基礎の定着を図る。具体物の操作を通して量感覚を養い、答えの見当をつけやすくする。</p>					
第4学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語科では3年時に比べてすべての領域で得点を伸ばし、特に「言葉・表現・言語文化」領域では全国平均との差を12.9ポイント上昇させている。</li> <li>○算数科では、3年時に比べて、全ての領域で全国平均との差が縮まっている。基礎問題と応用問題で落ち込みの差異はほとんどなく、基礎の定着から見直す必要がある。</li> <li>【課題】</li> <li>○江戸川区学力調査において、国語科では、「書くこと」「読むこと」双方の全般において、選択問題記述問題共に落ち込みが目立つ。特に文章読み取りの応用問題では、全ての設問において全国平均に比べ10ポイント前後低い。</li> <li>○算数科では、「知識・技能」「思考・判断・表現」とも16ポイント以上全国平均より低く、中でも「数と計算」「図形」領域の落ち込みが著しい。</li> </ul>			<p>○国語科では、漢字の定着を図る。</p> <p>○国語科の「文学的な文章」では、登場人物の心情の読み取りをできるようにする。</p> <p>○国語科の「説明的な文章」では、段落構成の把握と段落相互の読み取りをできるようにする。</p> <p>○算数科では、四則計算の定着を図る。</p> <p>○算数科では、図形の名称や性質を正しく理解させる。</p>			<p>○漢字の読み書き練習を計画的に行う。また、定着を図るため、朝学習や放課後補充で漢字の読み書きに取り組ませる。</p> <p>○物語文の学習で、登場人物の心情を考えるうえでキーワードになる行動や表現を全体で確認し提示する。</p> <p>○説明文の学習で、問いや答えにサイドラインを引いて段落構成を視覚的にわかりやすくする。</p> <p>○算数科の授業や朝学習を活用し、多くの計算問題に取り組ませる。AIドリルを活用し習熟を図る。</p> <p>○デジタル教科書や作図ソフトを使い、繰り返し、且つ視覚的に学習できるようにする。</p>					
第5学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語科では4年時に比べてすべての領域で得点を伸ばし、特に「書く」領域では全国平均との差を16.2ポイント上昇させている。</li> <li>○算数科では、分数・小数の乗法・除法では全国平均を上回って正答で、また、4年時に比べて、すべての領域で正答率が向上している。</li> <li>【課題】</li> <li>○江戸川区学力調査において、国語科では、「読むこと」、中でも、文学的文章の読み取りの落ち込みが他領域に比べ目立つ。また、漢字の書き取りも落ち込んでいる。</li> <li>○算数科では、過分を必要とする設問や概数において特に得点率の低さが目立った。</li> </ul>			<p>○国語科では、漢字の定着を図るとともに、書く力を高める素地として、文章を読む力の向上を図る。</p> <p>○算数科では、基礎的な計算技能を定着させ、文章を正しく理解して問題に取り組む思考力を高める。</p> <p>○一定の時間集中して取り組む力を高める。</p>			<p>○漢字小テストを定期的に行うことで、自身の定着率を可視化させ、課題を明確にして学習に取り組めるようにする。</p> <p>○文章の要点をつかめるよう、「よむYOMUワークシート」を活用する。国語の学習では文章を読み込む時間を十分に取って、一人一人が考えをもって取り組めるようにする。</p> <p>○算数科では、ドリルパーク・テストパークを活用する。結果を分析し、課題を明確にしながら問題を選び取ることで習熟できるようにする。</p>					
第6学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語科では5年時に比べて「話す・聞く」「読む」の領域で大きく得点を伸ばしている。</li> <li>○算数科では、基礎問題ではほぼすべての設問で全国平均を上回っている。5年時に比べて、「変化と関係」の領域を除いた3領域で正答率が向上している。</li> <li>【課題】</li> <li>○江戸川区学力調査において、国語科では、漢字の書き取りが全校平均に比べて大きく落ち込んでいる。また、記述問題全般にわたって得点率が低かった。</li> <li>○算数科では、図形や割合において得点率が低かった。</li> </ul>			<p>○国語科では、漢字の定着を図るとともに、自分の考えを論理的に記述できる力を育てる。</p> <p>○算数科では、図、式、表を適切に活用し、問題を活用できるようにする。</p> <p>○対話的な授業実践と、個に応じた指導を実践する。</p> <p>○辞書を日常的に活用できるようにする。</p>			<p>○漢字の読み書き練習を計画的に行い、正確に描くことができるようにする。</p> <p>○「よむYOMUワークシート」等を活用し、文章を読み取り、考えをもって記述する時間を確保する。</p> <p>○算数科では、図や表、グラフを用いて自分の考えを表し、互いの考えを共有するなどの時間を確保する。</p> <p>○朝学習等を利用して、算数の文章題や未習熟な計算の習熟に取り組む習慣を定着させる。</p>					